

プロの条件

2020.11.18

教師は、プロの専門職である。教師は、授業で勝負する。研修の機会などに幾度となく目にしたり、聞かされたりしてきた言葉である。実際のところ、私を含めて、どのくらいの先生方にプロ意識があるだろうか。「プロの条件」という文章を紹介する。

職業のジャンルを問わない。仕事をすることによって報酬を得ている人は、そのことによって、すでにプロである。また、プロでなければならないはずである。しかし、現実にはプロとしての仕事の仕方をしていない人が相当数いることも事実である。

プロとアマとの違いは何だろうか。それは次の4つに集約されるのではないか。

第一は、プロは「自分で高い目標を立てられる人」だということである。自分なりにほどほどにやればいい、この程度でいいだろうと、目標をできるだけ低く設定しようとするのがアマである。プロは違う。プロは自分で高い目標を立て、その目標に責任を持って挑戦していこうとする意欲を持っている。

第二は、「約束を守る」ということだ。約束を守るというのは、成果を出すということである。自分に与えられた報酬にふさわしい成果をきっちりと出せる人、それがプロである。成果を出せなくてもなんの痛痒（つうよう）も感じず、やれなかった弁解を繰り返してやり過ごそうとする者がいる。アマの典型である。

第三は、「準備をする」ということである。プロは「絶対に成功する」という責任を自分に課している。絶対に成功するためには徹底して準備をする。準備に準備を重ねる。自分を鍛えに鍛える。そうして勝負の場に臨むから、プロは成功するのである。

アマは準備らしい準備をほとんどせず、まあ、うまくいけば勝てるだろうと安易な気持ちで勝負に臨む。この差が勝敗の差となって表れてくるのである。表現を変えれば、プロは寝てもさめても考えている人である。起きている時間だけではない。寝ても夢の中にまで出てくる。それがプロである。少しは考えるが、すぐに他のことに気をとられて忘れてしまうのがアマの通弊（つうへい）である。

第四は、これこそプロとアマを分ける決定要因である。プロになるためには欠かせない絶対必要条件だといえる。それはプロは「進んで代償を支払おうという気持ちを持っている」ということだ。プロであるためには高い能力が不可欠である。その高い能力を獲得するためには、時間とお金と努力を惜しまない。犠牲をいとわない。代償を悔いない。それがプロである。犠牲をけちり代償を渋り、自己投資を怠る人は絶対にプロになれないことは自明の理であろう。

最後に一流といわれるプロに共通した条件をあげる。それは「神は努力する者に必ず報いると心から信じている」ということである。不平や不満はそれにふさわしい現実しか呼び寄せないことを知り、感謝と報恩の心で生きようとする、それが“一流プロ”に共通した条件であることを付言しておきたい。

さて、皆さんはこれらの条件を満たしているだろうか。満たすべく努力をしているだろうか。スポーツ選手だけがプロなわけではない。それぞれの業界にプロフェッショナルは存在する。教員の場合だが、プロが減ってきていると感じるのは私だけだろうか。確かなエビデンスがあるわけではない。印象にすぎないかもしれない。少なくとも指導的立場にある者は、まずは自分がプロ意識を持たなくてはならない。